

既存保育施設改修調査報告書

これからの既存保育施設の活用を目指して

杉並区

平成 30 年 3 月

一般社団法人 園 Power

はじめに ～杉並区の保育園の現状から見えること～

杉並区では現在、待機児童の解消に向けて一定の成果が得られている。保育事業の暫時民営化が進められる方向で施設の増設が図られている。民営化によって、保育園の運営が様々な主体によって担われ、保育サービスが多様化することは、推奨すべきことである。

また、公設保育園の今後の役割の見直しが検討されているところであり（「保育のあり方検討部会報告書（平成29年9月）」）、保育の質の維持と向上のため一定地域の園を束ねる中核園の設置、および障害児保育の拡充が示されている。後者においては、既存保育園を改修することにより、新たな障害児指定園が指定されることとなり、それらは中核園と同一となる可能性もある。

しかし一般的に既存保育園の改修は、保育のない休日に暫定的に行われるため、部分的かつ小規模な改修にとどまっている。これは改修工事には様々な問題が絡み、なかなか実行に移しにくい現状に直面しているためである。

このような区の方針を実現可能にするために、まず初めにすでに障害児を受け入れている障害児指定園の調査を行い、実態の把握を行う。さらに、新たに指定される障害児指定園の候補園について、その障害児保育の可能性と改修の検討調査、およびモデル的な基本計画の作成を行う。

調査の中では、社会情勢の変化に対応できず、保育環境の改善されないまま見過ごされている、複数の園に共通する課題も見受けられた。例えば、園児の安全確保のために、園庭側からの登降園を集中化する傾向がみられたり、玄関まわりのスペース不足や廊下に園児の持ち物の置き場所にとられてしまい十分な幅員が確保できないなど、既存の環境でやりくりせざるを得ない状況が観察された。そこから新たに発生した矛盾は、動線の安全確保などへの危惧である。

また、設備機器についても、園児は、床を這ったり、寝転んだり、遊びが床中心であるにも関わらず、床面が温まりにくい設備となっていたり、給湯設備の不足など、仕様が古い基準のままである実態も指摘できる。

そこで今回の提案では、保育活動を継続しつつ行うことができる、改修工事のあり方について検討した。さらに、その具体的提案を行うことで、保育園全体を視野に園の再生を行うことができ、園児の成育環境として、また同時に保育士さんが保育に関わりやすい保育環境の改善を可能とすることを目指している。これにより、休園することなく、保育園を延命化することが期待できる。

公共施設の延命化は、財政的にも環境的にも重要な課題であり、この報告書で示す調査および提案は、今後の持続的な保育環境のあり方を考える上で意義のある検討案を示すことができたと考えている。特に保育園は、多くが低層の RC 造であることから、構造的には耐久性に問題が生じにくい。適切な改修を施すことで、経済的で、かつ、効率的で、安全性の高い施設の延命化を行うことができ、適切な維持管理も可能になるということも同時に提示している。

